

2010年1月14日

各 位

 **日医工株式会社**
会社名
代表者名 代表取締役社長 田村友一
(コード番号 4541 大証一部・名証第一部)
問合せ先
取締役管理本部長 赤根賢治
電話番号 076-432-2121

2009年11月期 決算短信について

1. 2009年11月期の連結業績について (2008年12月1日～2009年11月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
2009年11月期	54,806	6,246	6,121	3,762	121円98銭
2008年11月期	42,841	5,175	5,442	3,442	111円83銭
対前期比	127.9%	120.7%	112.5%	109.3%	—

医薬品業界におきましては、2008年4月に実施されたジェネリック医薬品の使用促進策である処方せん様式の再変更や診療報酬改定による後発医薬品調剤体制加算などの制度変更の実施が図られておりますが、2009年9月時点のジェネリック医薬品の数量シェアは20.2%にとどまっております。制度変更によるジェネリック医薬品の拡大スピードは緩やかで低調に進んでいます。

このような状況であります。当社はDPC（急性期入院の包括制）を導入している全国1,283対象病院のうち1,265病院で当社製品を採用していただいております。調剤薬局においても全国52,700軒のうち47,100軒で採用していただいております。

現在、ジェネリック医薬品の品質・生産能力・生産性の向上を目的として富山県滑川市にある滑川第一工場に大型設備投資を行い、2010年4月稼働にむけて順調に工事を進めております。

また、グループ全体の生産効率をさらに高めるために、生産子会社であるマルコ製薬株式会社（愛知県春日井市）・オリエンタル薬品工業株式会社（山形県天童市）・テイコクメディックス株式会社（埼玉県さいたま市）の3社を2009年6月1日に合併により統合し、合併後の存続会社の商号を「日医工ファーマ株式会社」として発足させています。

さらに、ジェネリック医薬品の市場拡大に伴い医薬品原体の品質に対する要望が高まってきていることから、医薬品原体の製造販売を行う事業会社としてアクティブファーマ株式会社を2009年6月5日に三谷産業株式会社（本社：石川県金沢市）と共同出資により設立いたしました。なお、アクティブファーマ株式会社は、2009年7月27日に医薬品原体の製造販売を行う相模化成工業株式会社（本社：東京都町田市）の全株式を取得し子会社としております。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高が548億6百万円（対前期比127.9%）、営業利益が62億46百万円（対前期比120.7%）、経常利益が61億21百万円（対前期比112.5%）、当期純利益は37億62百万円（前年同期比109.3%）と売上高・利益とも大幅な増収増益を達成しそれぞれ過去最高となりました。

売上高を品目別に見ますと、高脂血症治療剤「メバン錠5mg・10mg」、経口プロスタグランジンE₁誘導体制剤「オパプロスモン錠5μg」、持続性Ca拮抗剤「アムロジピン錠2.5mg・5mg」、ロイコトリエン受容体拮抗剤「プラナルカストカプセル112.5mg」、血行促進・皮膚保湿剤「ビーソフテンローション・軟膏」などが堅調な売上を示しました。

なお、2009年1月に公表しました第5次中期経営計画「Honeycomb2012」の初年度業績目標が未達となりましたことから、今回、役員賞与の支給を見合わせることにいたしました。

2. 2010年11月期の連結業績予想について（2009年12月1日～2010年11月30日）

（単位：百万円）

通 期	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
2010年11月期(予想)	63,500	6,600	6,500	3,800	123円20銭
2009年11月期	54,806	6,246	6,121	3,762	121円98銭
対前期比	115.9%	105.7%	106.2%	101.0%	—

（単位：百万円）

第2四半期	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
2010年11月期(予想)	29,700	3,200	3,150	1,850	59円98銭
2009年11月期	26,676	3,111	3,082	1,622	52円99銭
対前期比	111.3%	102.8%	102.2%	114.0%	—

（次期の見通し）

今般の政権交代後も、2010年4月からの診療報酬改定について議論されてきた中で、約10年ぶりのプラス改定が予定され、またジェネリック医薬品の使用促進のための環境整備として調剤薬局における後発医薬品調剤体制加算の重点的評価なども検討されています。一方、同時に実施される薬価改定にて薬価ベースで5.75%の引下げが予定されていますが、国内経済の減速状況の長期化が懸念される中、ジェネリック医薬品に対する社会的ニーズは今後益々強くなるものと予想され、当社としても現在実施中の第5次中期経営計画「Honeycomb2012」に基づく各種施策を一つひとつ実現し、当社グループ自らも市場拡大に努めることにより、次連結会計年度は売上高635億円（対前期比115.9%）、営業利益66億円（対前期比105.7%）、経常利益65億円（対前期比106.2%）、当期純利益38億円（対前期比101.0%）の計上を見込んでおります。

3. 配当金について

2009年11月期の配当金につきましては、年30円〔第2四半期末15円〕を予定しております。なお、2010年11月期の配当金につきましても、有利子負債の圧縮及び内部留保の確保による財務体質の強化、設備投資等を踏まえ、2009年11月期同様の年30円〔第2四半期末15円〕を予定しております。

4. 企業集団の状況について

連結子会社は下記の1社であります

会 社 名	本 店	事 業
日医工ファーマ株式会社	富山県富山市	医薬品の製造及び販売

5. 役員の変動について

新任取締役候補（2010年2月25日付予定）

予定される新役職名	現在の役職名等	氏 名
取締役 信頼性保証本部長	上席執行役員 信頼性保証本部長	小林宏希
取締役 社長室担当	上席執行役員 社長室担当	町田英一

退任予定取締役（2010年2月25日付予定）

現在の役職名等	氏 名
取締役	堀 昭弘

なお、堀 昭弘氏は同日付けで当社相談役に就任予定であります。

<参考> 連結子会社役員の変動について

連結子会社3社を2009年6月1日をもって合併により統合し、同日付で石田貢が合併後の存続会社（商号：日医工ファーマ株式会社）の代表取締役になってまいりましたが2009年12月1日付けで退任し、新たに竹田好秀が代表取締役に就任しております。

6. その他 開示資料

(1) グローバル開発品質管理センター（Honeycomb棟）の建設に関するお知らせ(別紙資料をご覧ください)

(2) 人事異動について

2010年1月14日付けにて次の人事異動を行っております。

氏名	新	旧
瓜生直樹	取締役 開発本部長	取締役 開発本部長 兼 信頼性保証本部長
小林宏希	上席執行役員 信頼性保証本部長	執行役員 信頼性保証本部副本部長
島崎 博	執行役員 信頼性保証本部副本部長兼医薬情報部長	信頼性保証本部 医薬情報部長兼開発薬事グループマネージャー

以上